

サテライト横浜カップ 東京中日スポーツ杯争奪戦



2/7(水) 8(木) 9(金) **F1** ナイター開催 **川崎スポーツ**

レース展望

2月7日から開催の川崎競輪はサテライト横浜C、トウチュウ杯として開催されるF1ナイター。

S級戦は層の厚い南関東ラインに期待したい。前回Vの大石剣士(静岡109期)が復調気配で、嶋津拓弥(神奈川103期)や川越勇星(神奈川111期)の地元勢にチャンスが出そう。予選から鈴木陸来(静岡117期)や鈴木浩太(千葉119期)らが勝ち上がれば更に南関東勢の戦力はアップしそうだ。関東勢も強力。橋本壮史(茨城119期)や朝倉智仁(茨城115期)は数字以上に力があるし、寺沼拓摩(東京115期)も徐々に競走得点がアップ

してきている。期待の若手山口多聞(埼玉121期)も高い機動力を持つ。磯田旭(栃木96期)や朝倉佳弘(東京90期)らのマーク陣にとっては頼もしい布陣となる。北日本勢はやや戦力が手薄。1班にはただ一人、前回当地でVの佐藤和也(青森95期)はいるが、予選から桜井祐太郎(宮城117期)や伊東翔貴(福島100期)らが勝ち上がらないと厳しい戦いになりそう。中四国ラインの軸は島川将貴(徳島109期)で、優勝候補の筆頭。強力なまくりで別線を圧倒するか。九州からは坂本健太郎(福岡86期)。九州の機動型が少なく自ら自力で動く場面も見られそう。

A級戦の地元南関東勢は、菅原裕太(静岡100期)と金野俊秋(千葉92期)の自在型2人が中心で、巴直也(神奈川101期)や小菅誠(神奈川90期)の地元追い込み陣と連係。関東勢は若い小原文(茨城121期)の頑張り次第で寺沼将彦(東京111期)や中島将尊(群馬105期)が浮上。北日本はまだ自力もあるベテラン高谷雅彦(青森67期)や宇佐見裕輝(福島94期)が奮起。遠征勢はキメ脚確かな吉松直人(高知90期)と、長松空吾(大分123期)―佐藤健太(福岡101期)の九州コンビも強力だ。

各地区の戦力に差は無く混戦模様

S級
主力選手



大石剣士 静岡 109期

南関東ラインの主力となるのはこの大石剣士。ここ最近では腰痛に悩まされて状態が安定していなかったが、前回松戸では3日間バックを取ってオール連対でV。状態に問題が無ければ今シリーズも優勝候補の一人となるし地元勢にとっては頼もしい機動型のエース格。

S級
主力選手



島川将貴 徳島 109期

昨年は32勝を挙げF1の優勝回数は9回。大きくファンの車券に貢献している島川将貴。豪快なまくりが主戦法で、力を出し切りさえすれば格上相手でも十分に通用する脚力がある反面、大敗するもろさもある。シリーズリーダーとして連日人気に応えたいところ。

S級
主力選手



佐藤和也 青森 95期

昨年11月に当地でVを決めている佐藤和也。決勝では根本哲吏―橋本智昭の3番手から鋭く追い込んだ。普段から番手を回れば豊富な仕事量で自力選手を援護して、チャンスが来れば鋭いキメ脚を発揮する。しっかりした追い込み型で機動型からの信頼も厚い選手だ。

A級
注目選手

菅原裕太
静岡 100期



今期からA降級となった菅原裕太。前回岸和田で今期初Vを挙げるなど、安定した走りを見せている。ここ一番で思い切って駆ける度胸があれば、強気に好位をさばくレースもこなす。流れに応じて何でもできるオールラウンダー。攻め幅の広さが持ち味の選手。

A級
注目選手

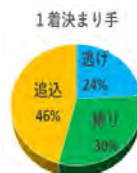
長松空吾
大分 123期



兄・大祐(121期)の背中を追い養成所の門を叩いた長松空吾は本格デビューして9連勝ですんなり2班に特昇班を果たす。学生時代から長距離種目で活躍した強力な地脚を生かした走りが魅力。競走への対応力を強化すれば1、2班戦初優勝も時間の問題だろう。

川崎競輪場バンクガイド (2023年10~12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回って行くようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル